

礒田正美

皆さんには二年間のすばらしいチャレンジが待っています。ご覧ください、笑顔なんですよ。私、この写真をどんなふうにするかといいますと、もちろん私にも勲章です。皆さんが旅立っていく素晴らしいきっかけとなる貴重な写真です。私にも貴重な写真です。それはあとでお話しますが、こういった活動をする際には、たくさんの裏で仕事をして下さっている方がいまして、そういった方の中でつかわしてもらいます。でありながらも私、この写真は最初の一枚目の写真はこんなふうに使わせていただきました。教育委員会からいらっしゃっている管理職の先生方になんです。先生方は普段学校でどんな先生方の顔を見てらっしゃいますか。こんなに素晴らしい笑顔の写真を見ることはありますか。そんな話です。こんなに素晴らしい機会を与えられている。それが派遣現職教員だと思うんですね。で、皆さんの仕事はいかに価値のあるのかという話をします。とは申しましても私は行ったことはありません。皆さんが私どもに教えてくださったことを伝える形になります。青年海外協力隊派遣現職教員のサポートという形で私たち、センター長の中田、担当の佐藤、鎌田、この4人で直接お世話させていただきます。もちろん他にもたくさんいます。皆さんが1人派遣されるためにどんな過程をへてらっしゃいますか。校長にお願いし同僚に話しその後もずっと続きます。その仕組みを支えている文部科学省の皆さんがいらっしゃいます。さらに受け入れ先であるJICAがあります。そういった方は直接表には出ないんですよ。直接表に出ないけれども皆さんいろんな期待をしています。それがこのプログラムです。“派遣現職教員ならでは”ということが大切になります。私が今ここで伝えたいことは派遣現職教員ならではということをお皆さんに考えていただきたいということです。すでにずいぶん派遣現職教員ならではという話を聞いていらっしゃいます。どういうふうに聞かれましたか。帰国後に経験をどういうふうにしたら生かせるか。“それならでは”ということ。他にもあるんですよ。“それならでは”探しをお願いしたいんですよ、この2日間。もちろん派遣されてからのことなんですけれども。それからもう1つ、皆さんのため、他の人のために考えていただきたいことがあります。これはお願いにもなります。今日は派遣現職教員ならでは、それから皆さんのため、他の人のため、私どもからのお願いをさせていただきます。まずはご覧下さい。これは文部科学省が進めている拠点システム事業のサイトにあります。国際教育協力は直接にはもちろんJICAがなさっていることです。もちろん文部科学省も留学生教育に予算を出しているんですけども、国際教育協力における拠点システム構築事業では文部科学省のもと、大学・教育委員会などと国際協力機関のネットワークができてどのように応援していくかということが進められています。もちろん先ほど白川さんが最初のお話で解説してくださいました。さっきの1枚の紙がありますね。あれが正式な内容なんですけれども、1つだけ分かりやすくいうとあれは私たちの応援みたいなものです。ネットワークを作って応援していくという。アーカイブス、例えばこの中ですね、たくさんのコンテンツがあるんですけども、・・・を見ていただく

いろいろな課題がございまして、それぞれどのような活動をしているかが示されています。さらにアーカイブスを検索していただきますと大いに役立つ内容が蓄えられています。皆さんが先ほど原さんからお話があった JICA のプロジェクト、そういったものをどうやって支援したらいいか、文部科学省側でよい課題を用意されてそれぞれ大学の関係者が応援に役立つ内容を打ち出してみたいんです。その中に派遣現職教員のサポートという主題がございまして。昨年度はこの 7 課題が行っています。で、明日はこの課題関係者からですね、皆様への成果のお話があります。私たちの方で何をしていますかといいますと全体調整です。全体調整というのは直接内容を作っているというよりはですね、先ほど申し上げました皆さんの活動がいかにか大事であるかということを知っていただいたり、こうした課題関係者と次に役立つような成果物を出していくというようなことで次の派遣に役立つような準備をしていこうというようなことで進めさせていただいています。直接的には中の資料を読んでいただければ、白川さんからの話は特に文部科学省より 1 枚ありますのでそれを見ていただければいいです。派遣現職教員の場合はこの 3 つを行っています。派遣前、派遣中、帰国後、この 3 つの場面で皆さんへの直接間接の支援をしています。ご覧下さい。こちら教育委員会です。子供たちがいますね。こちら側には派遣された先があります。ここにも子供たちがいます。文部科学省があつてみんなで進めさせていただいているので、サポート 6 課題がスムーズに進むように、皆様がよりいっそう活躍ができるように帰国報告会や派遣前研修や E 支援システムというようなものを行っています。内容を 1 つ 1 つお話ししますと、1 つは派遣現職教員ならではの活動をいかにか支援していく。“ならでは”というのは実は皆さんが主導することなのであって、その活躍をいかにか広め生かす場を作るのか、これが私どもの大きな役割です。各課題といかにか連携するか、これも私どもの 1 つの役割です。それから派遣現職教員に限らず、広く国際教育協力で役立つことをいかにか提供するか、情報だと思いますが、情報をいかにか提供するか。普段皆さんは現職教員でいらっしゃると思いますが、皆様の何代ぐらい前になりますでしょうかね。400 人ぐらいでしょうか、500 人ぐらいでしょうか。教育関係で派遣されるのは。現職教員ではなくて一般の隊員で。線引きが難しいんですけども、4~500 人の隊員がいつも派遣されています。今日は派遣現職教員ならではの活動をいかにか支援していくのかということを中心にお話させていただきたいと思います。派遣前研修です。いますでに話題になっているように皆さんには派遣現職教員ならではの活躍をしていただく、さらに各課題ですね、関係者と一緒に協働して活動できるということが大事です。でこれは私たちの中で管理させていただいております Web サイトなんですけど、E 支援システムと呼んでいるんですけども、3 つの内容で構成されています。1 つはですね、Web ページ、もう 1 つがデータベースこれが E アーカイブス/拠点システムアーカイブスと呼んでいるんですけど、先ほど拠点システムを見ていただきましたがあの中で検索して出てくるのがこれです。最後にデータベースの話をさせていただきます。

まず派遣現職教員支援の E アーカイブスの Web サイトを見ていただきますが、これは基

本的に皆様が活動中に作られたものです。中村先生のはドミニカ共和国での活動です。また“ケニアの片隅で”ということで高野先生のものが納められています。例えばこういったものをどのように作ったらいいか、すぐに話題になりますね。皆さん、私たちの役割は皆さんが任地で日本の友人や子供たちとどんなふうにしてつながっていることができるかと考えたときにこういった方法が大切になるんです。で、明日の研修では選択した内容によってはこういったものの作り方を話題にすることもあります。また皆様は教育関係者でありますので、必ず教育内容に関わります。そうすると日本ではどうやって教えているのとなります。これはEアーカイブスの中に入っている学習指導要領の項目です。今23件あります。23件、どういうことがあるかといいますと、これだけあるわけですね。かなりあるでしょう。今この青年海外協力隊の課題ですね、取り組んでいらっしゃる皆さんは違うので課題に応じてどんなコンテンツがあるか分かるようになっていきます。ちょっと中身を見ていただくと、これが佐藤先生のところの課題で作られた教育課程の解説をしてありますね。これは私の方で作ったものですが、これは学習指導要領の解説の方の翻訳です。学習指導要領は法律文書ですのでごく短いわけですが、解説文書ですので総説から訳してあります。よろしいですか。日本でどのようにカリキュラム編成したらいいか一般から出てまいりました。それから他にも家庭科教育の学習指導要領について解説書、タイの学習指導要領についての解説書、それから障害児教育における学習指導要領の解説書、いろいろな形で内容が登録されています。で、アーカイブスの良いところはですね、検索することでそのような情報を引き出せるようになっていくことです。ここにキーワード、「学習指導要領」と入れて検索すると、これだけ出てくるわけですね。必ず皆さん教育内容に携わるので、日本ではこう教えているんだよと解説が必要になります。そのときに役立つようなことです。もちろん皆さん全部持って行かれたらいいですよ。でも全部持って行かれるのも大変ですよ。ですので、Web上で全部見られて、しかも英語版がある。これは皆さん方の作品です。青年海外協力隊に派遣された方がですね、これは清水先生の指導案ですが、ベトナム語の指導案、日本語の指導案、このようになっています。素晴らしいと思うのは皆さん現地語ができることです。私は英語で指導案を書けといわれても四苦八苦ですよ。こう書いていいのかな、ああ書いていいのかなと、それを現地語でなさっている。皆さん3ヶ月間、70日間の訓練でそれができるようになるところがまた素晴らしいです。もちろんそのチャレンジは素晴らしいものだと思うんですが、で、これは金子さんがベリーズで英語で学習指導案を書かれていますね。これはバングラデシュの工藤さんです。身近な素材で実験する折り紙の話が書いてありますが、ベンガル語ですよ。田代さんが日本の子供たちに向けて送ったホンジュラス便りですね。こういったものもプリントで送ることができますし、情報として登録しておいていただければまた他の次に行く方が参考にすることができます。お願いしたいことはですね、皆さん行っている間にいろんな経験をされますね、是非それを帰ってきてから役立つ、それはそうなんですけれども、行っている間に役立てられるように加工をしておいてください。で、情報に乗せた

り、通信として子供たちに送ったり、皆さんすでに心の準備の方、お持ちだと思っ
よね。あと、ちょっとだけ違うのは時代が変わってきて、今はデジタル情報でうま
くとみんなで共有できるのです。是非こういう形で共有すると次の方が役立てら
れます。で派遣中・帰国後の活動の典型として、インターネットライブ授業という
があります。これは JICA ネットを使ってももちろんできます。インターネットライブ
授業という形で電話回線を使って行うものです。バヌアツと日本、ベトナムと日本
で行われています。これはすごく反響が大きくて必ず新聞の地方版で取り上げて
くださいます。朝日新聞神奈川で取り上げています。新聞ってなかなか取り
上げていただけないんですよ。こういった活動は必ず先進的な事例として皆
さん興味を持ってくださいます。このようなインターネットライブ授業がど
のような意味を持つかというのは実はもう先ほど開発教育の中で話を
されています。

これは西尾さんって方が生徒の国際理解教育をやったときのものです。青年
海外協力隊についてどんな活動をしているのかが分かった。150 もの開発途上
国があるとして、豊かな日本というところに生まれたのはとても運がよかっ
たと思った。逆に世界はずいぶん不公平だなと思った。しかし開発途上
国の一つであるドミニカ共和国はおもちゃでないものを違う視点から
見てみようというおもちゃにしてしまう。おもちゃとして工夫して使っ
てしまう。日本のような豊かな国ではそういった発想は生まれないとい
うようなことが複雑だなと思った。これからは笑顔を大切に生きていき
たい。これは子どもの感想です。これは先ほど開発教育で話題にされた
ことと同じなんですよ。どういことが同じかと申しますと、異文化体
験を通して国際社会人を育て、でも子どもたちが実際に体験している
ことは異文化体験による異文化感覚の覚醒です、どんなことかとい
うと未知との遭遇があります。全然知らない人たちとの話があります、
で、そこで自らをふり返ります。今までの自分があって、新しい自分
がなくて、この活動ですね、異文化体験をします。そうすると必ず
前の自分と新しい自分の対比が起こって、新しい見方が開けてき
ます。この子どもの感想では、自分たちばかりが不公平だと思っ
た、しかし…というここですね。今までであれば、これは日本で
だけでも思えるわけですよ。日本は豊かだな、向こうは貧乏だ
な、不公平だ、これはその段階でもできる、でもここから子ども
の言葉となりますね。おもちゃでないものを違う視点から見て
みようとするおもちゃにしてしまう。日本の豊かな国ではな
かなかそんな発想は生まれません。これは子どもの学びとして書
かれています。この体験をですね、工夫していけるのも先生方
であると思います。で、大事なことは先生方が行って、身
をもって体験されているんですよ。

その他に私たちメーリングリストというのをやっています。海外で活躍
中の先生方へ、こちらにいらっしゃる附属小学校の田中統治先生が
メーリングリストの中で相談されたものです。日本では寒くなっ
てまいりましたが皆さまの派遣先ではいかがでしょうか。本日は
海外の小学校教科書、算数、音楽、理科を中心についておたずね
します。国によって教科書の姿はかなり違うようです。附属小
学校では各国の教科書を収集して翻訳してみたい

と考えております。…というような形で JICA 経由で送っていただくことは可能でしょうか、費用は着払いで、という形で相談のメールを送られています。この後すごいですね、先生方の関心、私はレスポンスが早くてびっくりしたんですけども。ケニアの高野先生ですね、それからパラグアイの小沢先生、タンザニアの鈴木先生から、小学校の渡辺先生から、この後もまだ続くんですけども。こんなふうに世界中から声が帰ってくるんです。これが何に役立つかといえれば次に派遣される皆さんや先ほどの JICA でご覧になった開発教育や国際理解教育で使うことができるようになるわけなんです。教科書を読むというのはおもしろいです。子どもが外国の教科書を読めるんです。数学や算数の教科書は読めますよ、そのまま渡して。絵があるでしょ、この文章どんな問題かなんてすぐ想像できます。式は同じです。そんなわけでいろんな教材化を工夫していくことができます。その 1 つの例がですね、数学の場合でちょっとお話ししたいと思います。…いかがですか、おかしいですよ。何がおかしいんですか。上下ひっくり返ってるんですよ。なぜ私がこの写真を出したと思いますか。皆さんはすぐに外国に行かれると、こういう体験をするかもしれない。これはキャサリン・ルイスさんといって日本の授業研究をアメリカで紹介し世界に広めている方です。その方がですね、アメリカの授業研究を日本で紹介された時、授業研究による改善の本質とはという、授業研究のお話しは先ほど JICA の原さんがやはりなさっていましたね、日本の独創としての授業研究。実は附属小学校で学ばれてアメリカで広めてらっしゃるんですけども、キャサリン・ルイスさん自身がおっしゃっているのは、教材について、個別の教材についての力が改善されるんだという話しをされています。これをご覧下さい。これはですね、英語で考えていただいても同じ何ですが、スリー・タイムズ・トゥー。スリー・タイムズ・トゥーというのは、2 を 3 回ということ。日本語では違うんです、3×2 というのは 3 を 2 つということ。これは小学校の先生方にご存じだと思うんですが、小学校の先生以外にご存じないんですよ。何でこんな話しをしているのかというと、皆様が任地に行かれたときに教材力ほど大事なことはないんです。しかも自分が知っているとおりは限らないんです。実はですね、このまんま教えている協力隊員がものすごく多いです。特に経験がなければ、このまんましか知らないわけですよ。それはどんなことを途上国の子どもたちや先生方に経験させているかといえれば、これを経験させているんですよ。写真ではおかしいことが誰にも分かるんですよ。でも言葉が逆転していることはほんとに相手の立場に立って考えないと分からないんですよ。これも見ようとすればひっくり返って見なくてはいけないんですよ。ひっくり返って見るというのが相手の立場に立っているということですね。ご覧下さい、最後になります。日本の学習指導との相違はですね、日本の学習指導をする先生方にしかできないんです。先生方に期待されていることはここに書きました。1 つは日本での教育経験をお持ちであるということ、それは例えば日本の学術を拝見されるし、現場の力を拝見されているし、教材力を拝見されている。もう 1 つはですね、先生ならでは、日本の先生方が得意なのは逆転の発想で相手の立場を認めることですね。子どもの立場に立って考えるというのは毎日やっています。特に小学

校の先生やってらっしゃいますね、もちろん小学校の先生以外でもなさっていますけれども。任地での協力隊員の鏡としての現職教員、これもすごい大事ですよ。今日何で原さんがあんな話しをしたかということですね、原室長さんがいつも協力隊の事務局でいつも期待されているということは、皆さまが行ったらその場で1つの要として回すような役割を担うんです。それが私は最初からといたんですが、言葉の問題とかあるんですよ。若い人はどんどん言葉とかマスターしますから、皆さまが言葉を学ぶということはあるんです。だけれども日本の教育経験であれば皆さんです。

で、今のこの時間をお借りしまして、皆さまへの期待と、私どもがどんなことをさせているかということをお話しさせていただきました。すでにメーリングリストへの登録等もお願いしています。是非登録していただいて、国際教育協力というのはですね、皆さまのそれぞれの活動がよくなるようになるのはもちろん、全体としてよくなるような努力をですね、お互いにさせていたいただきたいと思います。どうもありがとうございました。

青年海外協力隊派遣現職教員のサポート

礒田 正美

(筑波大学教育開発国際協力研究センター)



写真



国際教育協力における拠点システム構築事業

Cooperation Bases System by MEXT

HOME

拠点システムとは

活動紹介

過去のイベント

過年度

アーカイブス検索

検索

Events

[平成19年度 青年海外協力隊 現職教員特別研修](#)

期日:平成19年4月2日(月)

場所:国際協力総合研修所



文部科学省では、国際社会が進めている「万人のための教育」を実現するために、途上国に対する初等中等教育分野等の協力強化を目的とし、教育協用に体系的に取り組むための「拠点システム」構築事業を実施しています。 [さらに詳しく](#)

背景・目的

国際教育協力拠点システムとは国際教育協力に実績のある広島大学と筑波大学を中核に、国公私立大学及びNGO、民間企業等からなるネットワークです。 [さらに詳しく](#)

具体的な機能

我が国の主力となる教育協力分野を強化するための「協力経験の共有化」をはじめとして... [さらに詳しく](#)



文部科学省下の
大学の
教育委員会
などと
国際協力機関
のネットワーク
応援部隊

応援に
役立つ内容
情報

青年海外協力隊派遣現職教員のサポート 平成18年度：7課題代表者



- 数学・理科：広島大学（代表：池田秀雄）
- 体育：青年海外協力協会（代表：渡邊祐輔）
- 家庭科：日本女子大学（代表：佐々井 啓）
- 環境教育：宮城教育大学（代表：村松 隆）
- 幼児教育：お茶の水女子大学（代表：浜野 隆）
- 小学校：筑波大学（代表：田中統治）
- 障害児教育：筑波大学（代表：前川久男）

- 全体調整：
筑波大学教育開発国際協力研究センター

国際教育協カイニシアティブ
我が国の国際教育協力の質の向上を目的とした活動
青年海外協力隊派遣現職教員のサポート



本活動内容：

JICA青年海外協力隊の「現職教員特別参加制度」により途上国に派遣される教員に対し、教育上の観点からのサポートする。

現職教員の派遣実績が多い職種を対象に、教育制度面や現地での指導法に関する情報提供等のサポートする。

隊員派遣前：隊員の活動に役立つ教材、指導書等の教育モデル、その他資料等の作成・上記教材等の紹介・隊員の活動準備に対する教育上の助言等・隊員との連絡体制の構築する。

隊員派遣中：隊員の現地での活動に対する教育上の助言等・各実施者が作成した教材等の有効性の確認・改善する。

帰国後：帰国隊員が行う国際理解教育へのサポートする。
(指導案の作成や教材準備等)

筑波大学教育開発国際協力研究センターが全体調整する。

目的

派遣前、派遣中、帰国後における派遣現職教員の活動への継続的な支援体制を築くとともに、支援に関わるリソースならびにモデル事例の開発を行う。加えて、各採択課題による支援の実施を調整する。

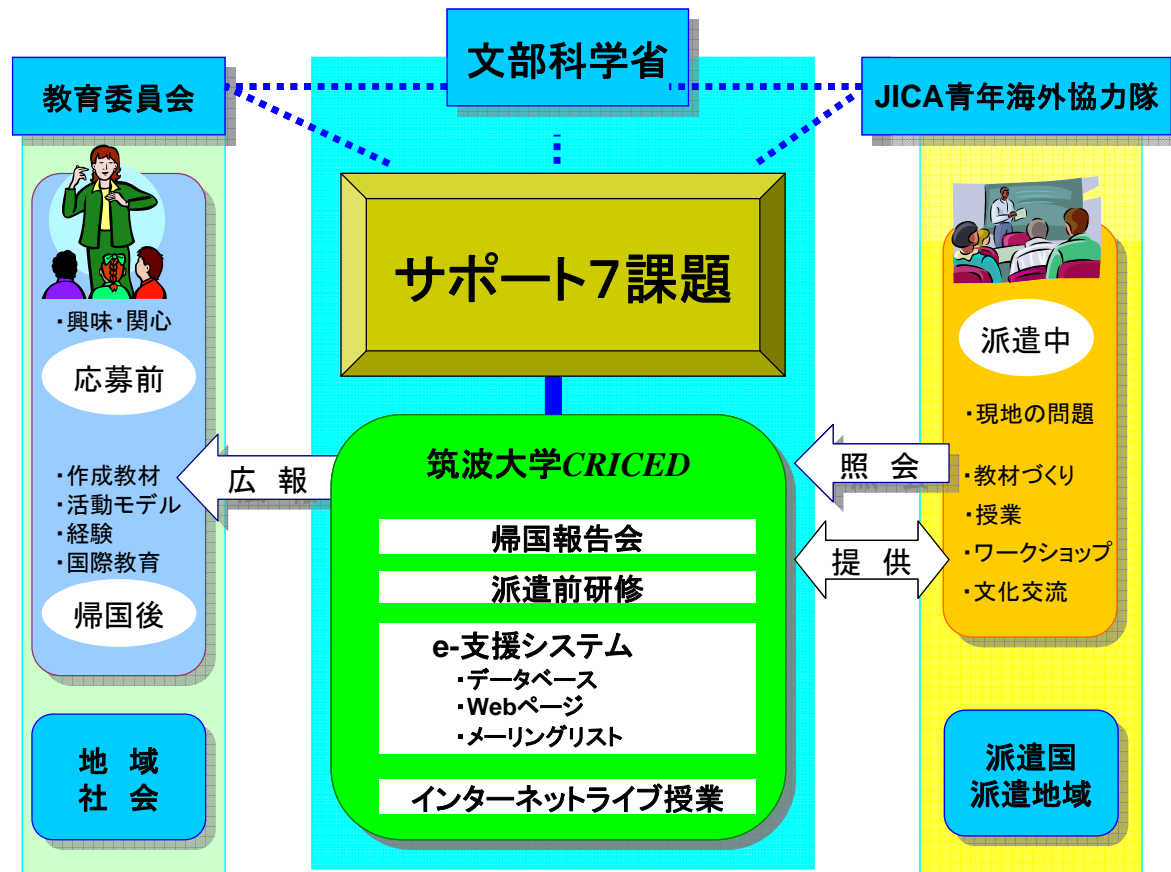


■派遣現職教員ならではの活動をいかに支援するか？

■その活躍の意義をいかに伝え、広め、活かす場作りを応援するか？

■各課題といかに連携するか？

■現職教員に限らず、広く国際教育協力で役立つ情報をいかに提供するか？



派遣前研修



- 期日：平成19年4月2, 3日
- 会場：国際協力機構国際総合研修所・筑波大学東京キャンパス
- 内容：国際理解教育研修
開発教育研修
拠点システム成果共有研修
帰国隊員による報告会
ICT活用研修など

みなさんに
派遣現職教員
ならではの活動
や役割を知って
もらうこと！



e-支援システム

http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/



ウェブページ

拠点システム 派遣現職教員支援事業

Support Project for Japanese Teacher Working Oversea

CRICED University of Tsukuba

TOPICS

- Home
- 事業概要
- シンポジウム
- GRAPES
- プロジェクト
- 報告書
- Mailing list
- 教材・リンク
- アクセス

事業概要
e-支援システム
Project outline
e-support system

国際教育協力
シンポジウム
International Symposium

派遣現職教員
HP
&メーリングリスト
HP
and Mailing list
of dispatched
teachers

国際理解協力
プロジェクト
Global
Education
Project

派遣前研修資料
調査報告書
Document
Research
Report

関数グラフ
描画ソフト
Function
Graphing
Software
GRAPES

作成教材
参考リンク集
Teaching
materials
Links

派遣現職教員
へのアクセス
(要パスワード)
Access to
dispatched
teachers

インターネット

データベース
(拠点システム
アーカイブス)

メーリングリスト

拠点システム 派遣現職教員支援事業

Support Project
for Japanese Teacher Working Oversea



CRICED
University of Tsukuba



派遣現職隊員によるホームページ

TOPICS

Home

事業概要

シンポジウム

GRAPES

プロジェクト

報告書

Mailing list

教材・リンク

アクセス

開発途上国での教育協力に携わっ
隊員、派遣前訓練中の派遣現職隊
支援することを目的としています。

登録ご希望の方は jocv@criced.tsl

- [TOMORROW ～ドミニカ共和](#)
平成18年度第1次隊隊員とし
ブログ。随時更新されていま

- [ケニアの片隅で](#)
平成18年度第1次隊隊員とし
グ。随時更新されています。

- [!Hola! from Nicaragua](#)
平成17年度第1次隊隊員とし
ブログ。随時更新されていま

- [ベトナム通信「地球に乾杯」](#)
平成17年度第1次隊隊員とし
グ。随時更新されています。

- [Carry On!](#)
平成17年度第1次隊隊員とし
随時更新されています。

- [コモールタタ](#)
平成17年度第1次隊隊員とし
HP。随時更新されています。

- [Everlasting Wind](#)
平成17年度第1次隊隊員とし

kamucomech.exblog.jp

TOMORROW ～ドミニカ

Japón

12月29日(金)ドミ

今日はシニア隊員
日本からのお客さま
16年度1次隊の宣
現職参加の中学校
私たちの来る前の
私たちとは入れ替わ
前の宣ブログや、彼

ココが変だよドミニカ
ココが変、あそこが
こうしたらいいのに。
そうやって話をして
…でも、でも、でも

学校現場一つをとっ
教師の病休なんで
こっちではテキトー
人間ある程度テキト
親が過保護すぎ。
自分の子どもの目の
失敗は成功の元。
抗菌抗菌て言いつ
こっちの子どもは運
赤ちゃんの時から
一長一短があるの
日本もドミニカに学

ケニアの片隅で

40歳を前に青年海外協力隊に応募し、ケニアのオザヤ市の更正施設でストリートチルドレンや孤児達に
体育を教えることになりました。日々の活動の中で考えたケニアのこと、日本のこと、そして地球のこと、
etcを記録していきます。

0 0 0 0 0 0



バックナンバー

2007年1月

2006年12月

2006年11月

2006年10月

2006年9月

2006年8月

2006年7月

（気持ち）青年
（の）海外協力隊

ケニアでの協力隊
員としての活動(仕
事)、食事など生活
を記録していきます。

最近の記事

2007/01/04

タンザニア任国外旅行3



翌日は午後からダラダラに
乗ってマコンデ村へ行きました。
マコンデ彫刻もタンザニア
を代表する土産物・民芸品で
す。もともとタンザニアの中
央高原地帯に住んでいたマコ
ンデ族が儀式用に製作してい
たもので、硬い黒檀の木を使
っているため黒っぽい色をして
います。もともと、現在土産物
屋で見る真っ黒なマコンデは、
靴墨を塗って黒く光らせていま
す。

マコンデ村を訪れるのも10
年ぶりです。その時よりも店の
数も村の規模もずい分大き
なっていました。彫刻を担当
しているフンディ(マコンデ彫刻
は彫刻と仕上げを別々の職人
が担当しています)の一人と
話をすると、彼ももう6年間も
ここで彫刻しているが、まだ
まだ駆け出しなのだとか。でも
一本の木から複雑なデザインを
削り出す様子は、ため息が出
そうな見事な技です。これを見
たら、とても「Unipunguzie be!
(まけて)」なんて言えなくなりそうです。



夜はタンザニアに出張しこら



キーワード検索

検索結果

検索キー: 学習指導要領
データファイル: すべて

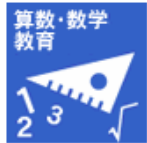
ヒット件数: **23 件**

絞り込み検索:



著者: 木村(飯田) 範子
タイトル: 教育課程編成と実施
要

データ



著者: 木村(飯田) 範子
タイトル: 算数・数学教育
要

データ



著者: 木村(飯田) 範子
タイトル: 算数・数学教育
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 長崎 栄三
タイトル: 算数・数学の教育課程における目標はどのように変わってきたか
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study (Grade 1-6)
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ

Current List: 11 - 20

Page: [1] [2] [3]



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study
要

データ



著者: 磯田 正美
タイトル: Elementary School Course of Study (Grade 1-6)
要

データ

Current List: 21 - 23

Page: [1] [2] [3]

著者: 長崎 栄三

タイトル: 算数・数学の教育課程における目標はどのように変わってきたか

要旨: 我が国の戦後の算数・数学の教育課程における目標の変遷について、学習指
における目標記述、指導要録における評価の観点を整理し、各年代ごとの主な
について概観した。本稿は、清水静海・磯田正美・大久保和義・馬場卓也 監修

タイ政府による、第7次国家経済社会開発計画(1992~97年)、第7次国家教育開発計画(1992~97年)以降の、教育の民営化及び地方分権化推進。1999年8月には新国家教育法が制定。

新国家教育法による5つの教育方針 2002年より段階的に実施

1. 「自然環境と調和した科学・技術の知識技能の発展」
2. 「宗教・文化・知恵の重視」
3. 「民間による教育管理・運営の促進」
4. 「地方における教育地区の設立」
5. 「12年の基礎教育制度の規定」

2001年の新カリキュラム制定では、「学習者が自主的・継続的に学ぶ学習者中心教育」および「ナショナリズム・グローバリズム・ローカリズムの調和」が図られている。

参考図書：学習実行計画 基礎科目保健体育学習重要点第1 (小学校1年生)

保健体育 1 小学校1-3年生

仏歴2544年(2001年) 基礎レベル学習指導要領

著者：Brchai Sirimhashakhon、Samtri Shiphamang、Whattcha Kwangthong

出版：アクソーンチャルーンタット社

教育省により、仏歴2544(2001年)年度から、基礎レベル学習指導要領が、以下の期間条件をもって通達された。

2002年 パイロット校及び教育省系統学校への導入
導入学年

2003年全学校	小学校1年生	4年生	中学1年生	高校1年生
2004年全学校	小学校1、2年生	4、5年生	中学1、2年生	高校1、2年生



課題ごとの検索

検索結果

課題名: 青年海外協力隊支援

項目1: おえらびください

項目2: おえらびください

ヒット件数: 187 件

絞り込み検索:



著者: 清水大格
タイトル: 体育指導案集
要旨: 本資料は、初等・中学校の体育科において記した指導案の集りである。

データファイル: PDF



著者: 浅香信之
タイトル: ホンジュラスの
要旨: 日本の数学教員として勤務経験のある浅香先生の指導法の問題集である。

データファイル: PDF

CHUYỂN BÓNG

ボール運び

1. Tên bài học : Chuyển bóng.

2. Chuẩn bị : Bóng đá.

3. Mục đích :

- Hợp tác cùng các bạn.
- Trẻ có thể nắm bắt bóng.

4. Về bài học :

Trẻ nhanh chóng nắm bắt bóng. Thông qua học tập, trẻ nắm bắt bóng giống như trong bóng đá.

5. Quy định

- Thành lập đội học.
- Khi bắt đầu thì đánh bóng.
- Khi đã trao bóng thì đánh giữa 2 chân.
- Đội nào chuyển bóng nhiều nhất thì thắng.

Khi đã quen : Cho trẻ chơi bóng đá.

1. 教材名 ボール運び

2. 準備する物 ボール

3. 目標

- 全員で協力してボールを送る楽しさに気づく
- 相手が受け取りやすいボールの渡し方に気づく

4. 教材について

ボールを早く、なおかつ相手が受け取りやすいようにパスをしていこう。サッカーやバスケットなどのボールを使った運動のように、協力して楽しむ。ボールがなかったり、ボールの数が少なくてもできる運動である。

5. ルール



- ・ 10人～15人のチームをつくり、頭の上でボールを受け渡す
- ・ 競技が始まったら足を動かしてはいけない。
- ・ 一番後ろまでボールが渡ったら、こんどは後ろから足の間を通して
- ・ 一番速くボールを前に戻したチームが勝ち。

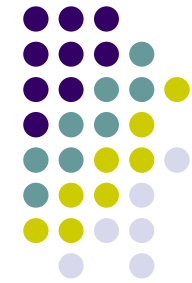
慣れてきたら・・・

- ・ 片手だけ、足だけ、でボールを渡す。

Standard1/2 Objective · Make their body stronger
 · Know own weak points

3classes plan 3/3

Time	Activity/Organization	Figure/Question	Equipment
1min	1 greeting		
1	2 explain today's plan @ make your body stronger		
5	3 warming up ①face to a teacher ②spread out with arms distance ③stretching & bending ④stretching arms ⑤stretching legs		
6	4 complex activities ①frog balance ②frog taps ③bridge ④balance game ⑤leap frog	①~④do the same as before 	⑤find a partner, one makes vaulting horse, and the other jumps over to use hands
13	5 pick-a-back relay ①find a partner as same as you ②make 8groups ③one holds the other on one's back ④touch the mark and switch parts		
3	6 discussion about 5 ○		
1	7 cool down ①shake hands ②shake feet ③rotate neck ④stretching arms ⑤stretching legs	When you do pick-a-back relay, which parts of muscle work?	@arms → need to train the parts @legs → need to train the parts @make students to wash their hands, gargle and drink water



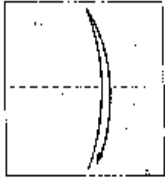
বিজ্ঞান ভিত্তিক খেলা ও খেলনা তৈরি

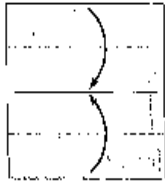
খেলনা নাম	শুকিয়ে দেব
উপকরণ	লেবু, ছোট খালা, সোমবাতি, দেয়াশলাই, কাগজ(মোট)
পদ্ধতি	<p>① লেবুর রস নেব।</p> <p>② হাত দিয়ে কাগজে ছবি আঁকব।</p>
	<p>③ কাগজ শুকাব।</p> <p>④ সোমবাতি আগুন দিয়ে হালকাভাবে তাপ দিলে ছবি কাগজে ভেসে উঠবে।</p>
সিদ্ধান্ত	লেবুর রস পদার্থ নষ্ট হয়ে আবার কাগজে দেখা যায়।
মন্তব্য	এই কাগজ পোপন কাগজ হিসাবে ব্যবহার করলে ছাত্রেরা আনন্দ পাবে।

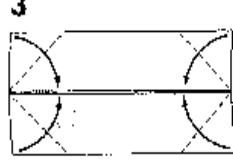
身近な素材で実験

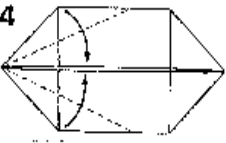
বঙ্গালি ভাষা!

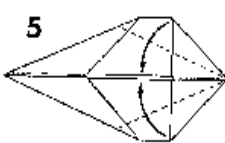
নৌকা

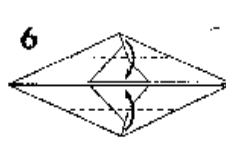
1  সমান ২ ভাগে ভাঁজ করি।

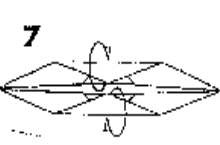
2  প্রতি অংশকে সমান ২ ভাগ করে মোট চারটি সমান অংশে ভাঁজ করি।

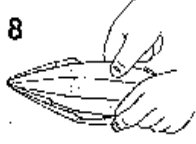
3  চার কোন করে সমান ভেঙ্গে ভাঁজ করি।

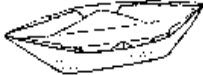
4  লম্বা দিক বরাবর পুনরায় চার কোন করে ভাঁজ করি।

5  লম্বা দিক বরাবর আবার ২ ভাগ করে ভাঁজ করি।

6  পুরো কাগজটি উল্টো করে মোলা করে ভাঁজ করি।

7  সমন্বয় উল্টে নিই।

8  দুই হাতে দুড়িয়ে নিই।

9  COMPLETE



ホンジュラスだより



ホンジュラス

日本

第8号 2004年11月 Fuma

北勢門小学校の皆さん、こんにちは。田代芳恵先生です。日本ではもうすっかり秋が深まり、冬支度をはじめるところでしょうか。こたつやストーブを出したおうちもあることでしょう。ホンジュラスは常夏の国、いつでも半袖やノースリーブです。でもやはりこの季節は少し寒くなるので、朝夕は長袖をちょっと羽織ったりしていますが、日中は相変わらず日差しが強く暑いです。

さて、今回は、前号で紹介した学校訪問の写真特集です。9月23日～11月11日まででクラスを持っている32人の先生会員の投票を見せてもらいました。(先生の受け持ちは37人ですが、2人は校長先生、1人は教育委員会の人、1人は教員組合長でクラスを持っていません。1人は残念ながら家の都合でやめてしまいました。) 学校訪問の内容は前回書いたのですが、今回は写真を楽しんでください。

学校訪問



はな
ぐに話せるようになるそうですよ。



では、北勢門小学校の皆さん、4月に会いましょう！

住所 Apartado Postal #105 Danli, El Paraíso, Honduras, C.A.

ホンジュラスより

田代芳恵先生

派遣中・帰国後の活動 「国際理解教育」モデル事例

平成18年11月11日
朝日新聞神奈川



- 派遣現職教員であればこそ実現する「国際理解教育」モデルの提案
- インターネットを利用した国際交流授業を2カ国で実施
- 制約のあるインターネット環境に準じた指導計画や日本側と相手国側の協働を促す人的ネットワーク作りを経て、「国際教育」のモデル事例を開発

『インターネットライブ授業』

バヌアツ: サントイースト小学校(17次: 秋山喜代)

日本側横浜: ミツ沢小学校(16次: 迫田陽子)

ベトナム: ニンソン小学校(17次: 真田昇)

日本側平塚: 松原小学校(15次: 清水大格)



ネットで交流授業

平塚市の松原小

ベトナムの小学校

平塚市天沼の市立松原小学校のコンピュータルームで9日、4年生53人が、ベトナム・バクサン省のニンソン小学校の児童とインターネットを使ったライブ授業に臨んだ。写真: 松原小に青年海外協力隊としてベトナムで授業をした高橋道陽さんがアシスタントとして

4年生同士、文化や習慣紹介

参加し、通訳をした。ニンソン小側では、現地にいる協力隊の真田昇教諭が窓口になり、4年生33人の発言を日本側に伝えた。松原小の児童は、湘南ひらつか七夕まつりを写真や絵を使って紹介。ベトナムの子どもたちからは、「織姫とひこ星の再会は、日本人の宇宙旅行ですか」といった質問も飛び出した。絵を使って生活習慣などを紹介すると、双方の児童から歓声も。授業に参加した鈴木亜純さん(9)は「バラがベトナムにもあると聞き、面白い授業だった」と言う。井出弘校長は「異文化や伝統をライブで理解する授業になり、児童の将来にとって有意義だったと思う」と話していた。





「多米共和国 (2004.7~2006.3) 海外青年協力隊として小学校へ勤務。算数教育を担当した。

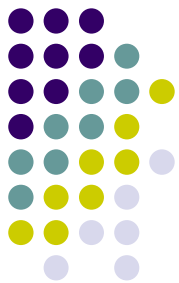
青年! 海外協力隊について色々な活動をして
いるのが分かった。150もの開発途上国がある中
でも豊かな「日本」というところに生まれたのは
とても運がよかた。たし思った。だが逆に世界は
いかに不公平ななとも思った。しかし、開発
途上国の一つであるドミニカ共和国はおもちゃで
よいものを違う視点から見て見事に「おもちゃ
ししてしまう。日本のような豊かな国ではそういう
発想が生まれにくいというところは複雑なな
思った。これからは「笑顔」を大切に生きていきたい。

「フェイス (2005.3~2006.1) 高校生留学プログラム



「開





生徒を見る目にゆとり

青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」

シンポ ジウム 帰国隊員が成果を報告

青年海外協力隊員として発展途上国に派遣された現職教員がその体験を報告するシンポジウム（文部科学省、筑波大学）主催、独立行政法人国際協力機構（JICA）共催）が7日、都内で開かれた。教員ら約200人が参加。派遣教員19人が活動の成果を報告し、外国で教育活動に従事する有効性を訴えた。

ドミニカ共和国の小学校で算数教育に携わった茨城県守谷市立愛宕中学校英語科の西尾直美教諭は、帰国後の教育活動について報告した。

「帰国後、一番変わったのはいわゆる落ちこぼれの生徒への対応。『日本では勉強ができないかもしれないし、いい就職ができないかもしれない。でも、みんなには世界の子どもを救える力がある』と伝えている。これは参加したからこそ言えること」と力強く話した。

また、体験を踏まえ国際理解教育に対する考え方について説明。「『発展途上国はかわいそう』という既成概念をどう崩すかがポイント」と強調。「よくドミニカについて聞かれるが、国際理解教育はその国について伝えることではない。ドミニカを含め、世界にはいろいろな生活や文化があることを知らせる」と

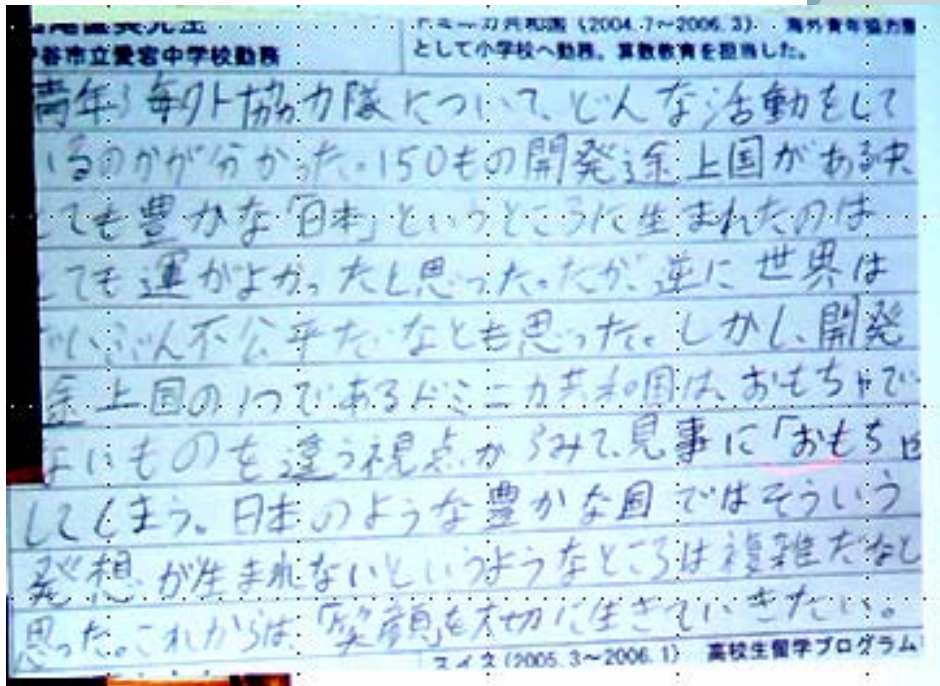
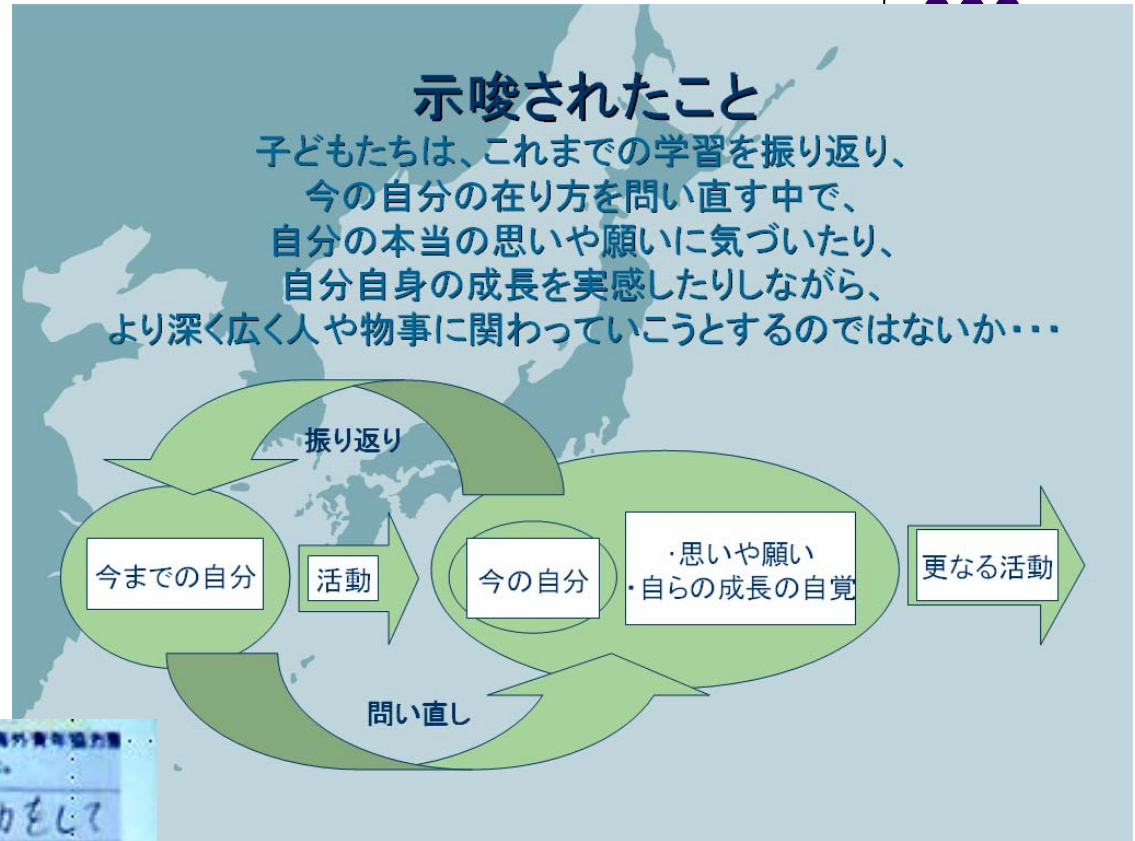
述べ、国際理解教育の充実のために派遣教員を活用する体制整備を提案した。



「現職教員特別参加制度」は公立学校の教員が青年海外協力隊に参加する制度。日本で培った現場経験を生かし、発展途上国の教育機関で国際協力活動に従事すると同時に、その体験を日本の教育現場に還元し、国の教育の質を高めようというもの。派遣期間は研修を含め2年間。平成14年度に始まり、これまでに354人が派遣された。JICAは毎年100人の現職教員の派遣を目指しているが、「参加率は低い」という。また、シンポジウムでは、多くの派遣教員が「派遣制度は有効」と評価する一方、制度が教員の間知られていないことや、体験を生かす場が整っていないことが課題として挙げられた。

国際理解教育 で大切なこと

- ねらい
 - 異文化体験を通して国際社会人を育む。



異文化体験による文化的視野の覚醒

未知との遭遇(異文化体験)
振り返りによる
新しい自分/見方の自覚

From: totanaka@hum
Subject: [ejocv-ml:034
Date: 2006年11月25日
To: ejocv-ml@crice
Reply-To: ejocv-ml@crice

海外でご活躍の先生方へ

日本は寒くなってまいりましたが、さて、今日は、海外の小学校教科書をお尋ねします。国によって教科書が異なるので、各国の小学校教科書を収集して、どのようになれば、入手できるでしょうか？費用は着払いで

田中統治 (Toji Tanaka) 〒305-8572 つくば市天
Tel&Fax研究室: 029-853-6723 (火~木)
附属小: 03(3946)1392~4 (月・金)
Fax: 03(3946)5746 (月・金)

From: fwge4929@mb.infoweb.ne.jp
Subject: [ejocv-ml:0350] Re: 筑波大学附属小からお願いします。
Date: 2006年11月25日 20:20:52:JST
To: ejocv-ml@criced.tsukuba.ac.jp
Reply-To: ejocv-ml@criced.tsukuba.ac.jp

メールマガジンの活用例

高野のケニアの教科書は普通に書店で購入可能です。「何年生の何の科目の教科書」が必要なのか指定していただければ、購入は可能で

From: rxn05164@nifty.com
Subject: [ejocv-ml:0352] Re: 筑波大学附属小からお願いします
Date: 2006年11月26日 18:34:26:JST
To: ejocv-ml@criced.tsukuba.ac.jp
Reply-To: ejocv-ml@criced.tsukuba.ac.jp

JICA経由
そちらから
着払い
私もしくは
ちなみに、
最初の20
仮に10k
教科書は
10000k

タンザニアの理数科鈴木です。タンザニアの教科書は、書店で購入できます。集めることは簡単ですが、送料が心配です。また、タンザニアの小学校の教科書は、スワヒリ語です。

Suzuki Yuji

rxn05164@nifty.com
yuji@mbr.nifty.com

JOCV

From:
Subject:
Date:
To:
Reply:

From: wihhei@hotmail.co.jp
Subject: [ejocv-ml:0353] Re: 筑波大学附属小からお願いします。
Date: 2006年11月27日 7:27:03:JST
To: ejocv-ml@criced.tsukuba.ac.jp
Reply-To: ejocv-ml@criced.tsukuba.ac.jp

15年1次隊、パラグアイでは、でも、私立の学、それでもよけれ、また、日本語に、取り急ぎ用件ま

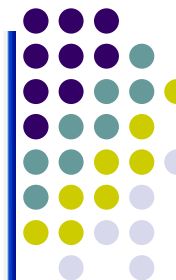
18-1ドミニカ共和国、小学校教諭の渡邊です。ドミニカ共和国では教科書は書店で購入可能です。国定の教科書のようなものではなく、公立に関しては指定がありますが複数の出版社から出版されているため、数種類のものが入ります。1冊の値段がそれほど安くないので送料と合わせて費用負担の問題さえクリアできればご協力できると思います。

拠点システム構築のための数学部門協力経験の共有化事業

Mathematics Project
Cooperatio Bases Systems by MEXT



CRICED
University of Tsukuba



TOPICS

Home

組織

作成教材

事業概要

協力経験共有

活動

国際シンポジウム

学会発表

リンク集

	組織 Organization		作成教材 developed teaching- material
事業概要 Outline of Our project		協力経験共有 Sharing the cooperation experience	
	活動 Activities		国際シンポジウム International Symposium
学会発表 Academic Presentation		リンク集 Links	

Contact us

<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/math/>

Jyugyokenkyu



授業研究による改善の本質は？



かけ算の逆転vs写真の逆転



語用とかげざんの式の意味に矛盾はないが、同数累加ではない。西語

九九は同数累加で暗記しやすが語用に矛盾、交換法則を優先して克服。西語

九九は同数累加で暗記しやすい。日本

西語における工夫	<p>各項毎の増加</p> $3 \times 1 = 1 + 1 + 1$ (o) (o) (o) $3 \times 2 = 2 + 2 + 2$ (oo) (oo) (oo) $3 \times 3 = 3 + 3 + 3$ (ooo) (ooo) (ooo) <p style="text-align: center;">項数が 不変</p> <p>3の段(工夫として)</p> $3 \times 1 = 1 + 1 + 1$ $3 \times 2 = 2 + 2 + 2$ $3 \times 3 = 3 + 3 + 3$ $3 \times 4 = 4 + 4 + 4$ $3 \times 5 = 5 + 5 + 5$ $3 \times 6 =$
語用相異	<p>西語で 3×2 は、「2の3回分」を表す。</p> <p>日本語で 3×2 は、「3の2つ分」を表す。</p> <p style="text-align: right;">逆</p>
我が国で通じる常識	<p>同数累加</p> $3 \times 1 = 3$ (ooo) $3 \times 2 = 3 + 3$ (ooo) (ooo) $3 \times 3 = 3 + 3 + 3$ (ooo) (ooo) (ooo) <p style="text-align: center;">累加する 数が不変</p> <p>3の段(各国の現実)</p> $3 \times 1 = 3$ $3 \times 2 = 3 + 3$ $3 \times 3 = 3 + 3 + 3$ $3 \times 4 = 3 + 3 + 3 + 3$ $3 \times 5 = 3 + 3 + 3 + 3 + 3$ $3 \times 6 =$

日本の学習指導との相異は、日本の学習指導を知る貴方しかできない。



現職教員ならずとも誰にも大切なこと

- チャレンジ、人のつながり、心の交流……

現職教員ならでは

- 大切な日本での教育経験／日本の学術／現場力／教材力
- 逆転の発想で、相手の立場で認める海外の教育
- 任地での協力隊員の要としての現職教員
 - 現職教員のノウハウを一般隊員へ
 - 現職教員のノウハウを任地で
- 帰国後の還元